

2008年4月21日(月)10:30a.m.

LH737便は、定刻通り中部国際空港をドイツ フランクフルトへ向けて、離陸しました。何度飛行機に乗っても、この離陸の感覚には慣れません。恐怖心に近いものを感じます。

最近サンゴバンの対応がおかしい。。。と感じ始めたのは、1年半ほど前でした。ダルを発注しても4割ほどしか入荷しない。アンティークも時々サンゴバンの色味で入荷するのに実際は、ランバーツタイプのガラスが来たり何か変だ。。。そのうちサンゴバン社から、ダルの生産を止めると知らせてきた。サンゴバンの知らせてきた通り 入荷したダルは、何かが違う色味や、厚み、割れ方など、サンゴバンの物ではない。サンゴバン大丈夫か???といふ疑念が浮かんでくる。いやいや、100年以上の歴史を持った会社が、まさか。と頭の中で押し問答をしてみる。そんな折、サンゴバンから Open Daysなる物(弊社でいう文化祭みたいな物ですね)を開催するという招待状が届きました。ちょうど、現地に確認をしてみたいと思っていた所だ。そんな理由で、フランスに向かう為にこの飛行機に乗っていたわけです。名古屋から、フランクフルトで乗り換えて、フランスは1日間で、約17時間の道のり 考えるとざんねりします。

Open Daysに参加してみて、まず感じたのは、頭の中での押し問答は、余計な心配だったといふ事。目に入ったのは、世界各国からの参加者が大勢ソロソロと敷地内に入っていく様子。当たり前のことですが、外国人ばかりの中に入ると、各国のサンゴバンの社員が、最近のガラスのテクノロジーのプレゼンをしたり、工場ではアンティークの制作を見学者に説明したりと大賑わいでした。

担当者とは昼食をとりながら、色々話す機会を持つことができました。話してみて分った事。サンゴバンは大丈夫。心配はない。ホッとした。担当者によると、最近の世界のマーケットは著しく変化してきていて、それに対応している。ニーズの少ない物は、止めていき、多いものは増やしていく。会社を経営して行く上で、必要な事をしなければならぬ。と少し苦悩の色浮かべていた様に見えるのは気のせいだったでしょうか? 会社の経営上、いたしかた無いが、少ないニーズにでも、応えていけるのであれば、いきたい。と、そんな気持ちの表れだったような気がしました。

余談ですが、会話の中で、“リストラチャー”といふ言葉を時々、その担当者が使っていました。いわゆる、リストラといふ言葉。日本では、リストラ=人員削減・首切りといふ意味で使われていますが、本来は、“再編” “再構築” “建て直し”といふ意味の単語です。アメリカでは、会社の建て直しをはかる際に、まず人員削減から始める所から、リストラ=人員削減といふ風に使われるようになったんですね。今回のサンゴバンでは、文字通り、商品の再編といふ意味で、この言葉を使っていました。

さて、サンゴバンの社員の方達が、行っていたプレゼンを見ていて、ヨーロッパでは建材のガラスが主流で動いているんだなと感じました。アンティークのガラスでも、強化ガラスにラミネートして、店舗に入れるような動きが多いようです。写真を見せてもらいましたが、何十枚というアンティークが壁面に取り付けられている様子は圧巻です。昔ながらのステンドグラスとはかけ離れていますが、アンティークでもこういう使い方があるのだと感心しました。見た目にもモダンな感じがとても良かったです。

しかし、フランス人は話には聞いていましたが、本当に英語を使わない人種ですね。こちらの言葉が解っても、英語では返してくれませんでした。サンゴバンの方達はもちろん英語で会話してくれますが、街中、空港のショップの人達でさえも英語では会話してくれません。フランス語がまったく解らないので、日本語で返答してみたりして、お互いに会話が成立しない場面もあり、なんのこっちゃです。でも、基本的には優しい人種でした。言葉が解らないなりに、何とか会話を成立させようといふ姿勢が見られて、アメリカ人にみたく、英語ができないと、切捨て! の様な冷たさはありませんでした。(ちなみに、偏見で話しているわけではなく、実体験を基に話しています。) 帰りに、乗り継ぎでフランクフルトに泊りましたが、ドイツ人はとても親切です。道に迷った時など、とても親切におしえてくれます。日本人に似ているなど思いました。

最後に、ダルの件ですが、サンゴバンのダルが今後無くなっていくにあたって(色によっては、在庫の無い物もあります。) 今後はココモのダルを充実させていく予定です。色味、品質も安定している商品です。こちらの商品もよろしくお願ひいたします。